

主な出来事

【内政】

- ラマポーザ大統領による土地及び農地改革の問題にかかる答弁

【外交】

- ラマポーザ大統領のザンビア及びコンゴ（民）訪問
- ラマポーザ大統領の SADC 首脳会合出席
- 南アの土地改革に関するトランプ米大統領のツイートに対する抗議
- メイ英首相の南ア訪問

【経済】

<経済指標>

- 消費者物価指数（CPI）
- 為替レート
- 製造業
- 鉱業生産高
- 自動車販売台数

<出来事>

- S a c c i ビジネス景況感の上昇
- 統合資源計画 2018（案）のパブリックコメント開始

【広報・文化】

- プレトリア大学における日本語講座の開講
- 日本研究センターによる日本・南アフリカ交流史セミナーの実施
- 津軽三味線・ジャズピアノデュオ「去来」の南アフリカ来訪
- NHKワールドドキュメンタリー及び映画上映会の実施

【警備】

- クワズールナタール州における車両に対する投石・殺人事件の犯人検挙

1 内政

- ラマポーザ大統領による土地及び農地改革の問題にかかる答弁

22日、ラマポーザ大統領は、課題となっている土地及び農地改革の問題（改革は現在進行中であるが、一部市民により土地が不法占領され警察が出動する事案や、私有財産の保護を主張する抗議行進などが散発している状況）につき、「同改革は、秩序ある方法でかつ憲法に従って実施されるべき」旨を、国会答弁において強調した。

2 外交

- ラマポーザ大統領のザンビア及びコンゴ（民）訪問

9日、ラマポーザ大統領はザンビアを実務訪問し、ルング大統領と会談した。10日にはコンゴ（民）を実務訪問し、カビラ大統領と会談した。この外遊は、新任の国家元首が隣国の指導者を表敬訪問するという SADC（南部アフリカ開発共同体）の伝統に則ったものである。

●ラマポーザ大統領の SADC 首脳会合出席

16日から17日、ラマポーザ大統領は SADC 首脳会合に出席するためにナミビアを訪れた。SADC 首脳会合は、「持続的な開発のためのインフラ開発及び若者の自立の促進」というテーマの下開催され、ラマポーザ大統領は、南アが議長国を務めた2017年8月から2018年8月31日までの SADC の活動に関し報告を行った。

●南アの土地改革に関するトランプ米大統領のツイートに対する抗議

22日、トランプ米大統領が、南アにおける土地の接収と農民の大規模な殺害を詳しく調査するよう国務長官に命じたという主旨のツイートをしたのに対し、23日、国際関係・協力省は、抗議声明を発出した。声明は、土地改革が憲法の規定内で行われ、経済を成長させ、食糧安全保障を向上させ、農業生産を向上させると主張した。

●メイ英首相の南ア訪問

28日、メイ英首相は南アを実務訪問し、ラマポーザ大統領と会談した。両首脳は、経済成長と開発を加速化させるために、生産業、農産加工業、インフラ開発、鉱業、エネルギー及び観光等を優先的な投資分野として特定し、英国と SACU 及びモザンビークが経済協力協定に関する共同声明に署名したことを歓迎した。

3 経済

<経済指標>

●消費者物価指数 (CPI)

7月の消費者物価指数 (CPI) は、前月比 0.5%増の 5.1%となり、物価は平均して前月より 0.8%増加した。CPI は家庭内製品が前年同月比 5.2%増、交通費で前年同月比 10.0%増、及びその他のグッズ・サービス費で前年同月比 5.7%増となった。(8月22日、南ア統計局)

●為替レート

2018年8月31日付 (南ア準備銀行)

7.5537 円/ランド

14.6545 ランド/米ドル

17.1179 ランド/ユーロ

●製造業

南ア統計局によると、6月の製造業生産高は前年同月比 0.7%増。主な要因は、食品・飲料製品で 4.3%増、及び石油、化学製品、ゴム及びプラスチック製品で 1.7%増。他方で、自動車及び郵送機器関連製品で 3.3%減、木材、木製品、製紙、出版及び印刷製品で 1.5%減、及びラジオ、テレビ、通信関連製品で 9.8%減。季節調整後生産高は、前月比 0.3%増。2018年第2四半期の季節調整後生産高は、前期比 0.1%減となった。主な要因は、製造業 10部門中 7部門での生産減で、特に自動車及び郵送機器関連製品で 4.0%減、及び家具、その他の製造製品で 9.2%減が最大のマイナス要因となり、他方で石油、化学製品、ゴム及びプラスチック製品で 2.7%増となった。(南ア統計局、8月7日)

●鉱業生産高

南ア統計局によると、6月の鉱業生産高は前年同月比 2.8%増。主なプラス要因は PGMs で 28.2%増、ダイヤモンドで 18.7%増、及び鉄鉱石で 4.2%増。他方で、金が 19.2%減で最大のマイナス要因となった。季節調整後生産高は、前月比 5.0%増。2018年第2四半期の季節調整後生産高は、前期比 0.8%増となり、PGMs が最大のプラス要因。(南ア統計局、8月14日)

●自動車販売台数

南ア自動車工業界（NAAMSA）は、8月の自動車販売は、国内で新車及び軽自動車の販売が伸び悩み、業界全体で8月の販売台数は前年同月比2.5%減の47,964台となったと発表。業界全体の販売台数のうち、ディーラー販売が80.9%を占め、レンタカー業界が12.5%を占めた。国外販売台数は、前年同月比7.7%増の32,247台を記録し、年内の販売台数は今後3年間増加する見込みではあるものの、2018年の国外販売台数は前回予想から7%減の34万台となる予想。

<出来事>

●Sacciビジネス景況感の上昇

南ア商工会議所（SACCI）は、7月のビジネス景況感（BCI）が半年ぶりに上昇し、前月比1ポイント増の94.7ポイントと発表。本年BCIは、1月の99.7ポイントから徐々に低下し、6月は93.6ポイントまで減少していた。BCIは必ずしも実際の経済成長を反映しないものの、SACCIは、経済成長のモメンタムは持ち直したとの見解。ラマポーザ政権への期待がある一方で、依然として不透明な経済政策が今後も市場の景況感に影響。

●統合資源計画2018（案）のパブリックコメント開始

27日、南アエネルギー省は、電力規制法（Electricity Regulation Act）に基づき、資源統合計画2018（IRP：Integrated Resource Plan）（案）を公表し、60日間のパブリックコメントに付した。

本計画は、電力需要の高低、再生可能エネルギーによる電力供給の制限の有無、温室効果ガスの累積排出量（Carbon Budget）による電源構成の制約、ガス価格の変動の要因ごとに複数シナリオを検討した上で、2017年から2030年までの電源構成と2031年から2050年までの電力供給方針の2つの期間に整理。電源構成のあり方については、電力の安定供給、電力コストの最小化、環境負荷の最小化及び水使用量の最小化を追求した上で、2030年の電源構成を石炭（33,847MW：44.7%）、ガス及びディーゼル（11,930MW：15.8%）、風力（11,442MW：15.1%）、太陽光（7,958MW：10.5%）、水力（4,696MW：6.2%）、揚水（2,912MW：3.8%）、原子力（1,860MW：2.5%）、その他（1,099MW：1.5%）としている。

4 広報・文化

●プレトリア大学における日本語講座の開講

2日（木）、プレトリア大学日本研究センター協力の下、同大学生涯学習部門において今期の日本語講座がスタートした。なお、同日本語講座は、2013年以降半期ごとに実施されており、日本語学習の機会が少ない南アにおいて、貴重な機会の一つとなっている。

●日本研究センターによる日本・南アフリカ交流史セミナーの実施

4日（土）、当館及びプレトリア大学日本研究センターの共催により、アジアの対アフリカ開発研究のスペシャリストであるペドロ・ラポウズ関西大学経済学部教授を招へいの上、創立100周年を迎えるステレンボッシュ大学の協力を得て同大学内施設において日本・南アフリカ交流史セミナーを実施した。

ラポウズ教授を始めとする14名の登壇者による講演とパネルディスカッションにより、長きにわたる日本とケープタウンないし南アフリカとの関係を回顧するとともに、在ケープタウン邦人コミュニティが持つ「日本とケープタウンにかける思い」が紹介され、会場全体が日本の「南ア及びアフリカ大陸発展に対する貢献」について考える好機となった。

本セミナーは、日本政府が1918年8月8日にアフリカ大陸初の日本外交使節団としてケープタウン領事館を設置して100周年となることを記念して実施されたもの。

●津軽三味線・ジャズピアノデュオ「去来」の南アフリカ来訪

8日～10日、津軽三味線奏者の山口ひろし氏とジャズピアニストの木原健太郎氏からなる音楽デュオ「去来」の南アフリカ公演が行われた。

去来は、ブルックリンシアター（プレトリア）（8日（水））、ホームラウンジ（マボパネ）（9日（木・祝））及びヤングブラッド（ケープタウン）（10日（金））においてそれぞれコンサートを行い、自身のオリジナル曲から「故郷」を始めとする日本の唱歌のほか、南ア国歌などを情熱的に演奏した。会場に詰め掛けた聴衆は去来の奏でる和と洋、過去と未来の音のハーモニーを通じて、遠い日本と南アフリカとのつながりに思いをはせていた。去来の南アフリカ公演は、日本政府が1918年8月8日にアフリカ大陸初の日本外交使節団としてケープタウン領事館を設置して100周年となることを記念して実施されたもの。

●NHKワールドドキュメンタリー及び映画上映会の実施

24日（金）、戦後73年を記念して、当館多目的ホールにおいてNHKワールドドキュメンタリー（こうしてヒロシマは世界発信されていった）及び映画（はだしのゲン・1）の上映会を実施した。

広島市への原子爆弾投下をテーマとした2作品の上映会には、多くの聴衆が足を運び、戦争の悲惨さや核の脅威について認識を深くしていた。また、多目的ホール入り口には、昨年実施された核軍縮・不拡散を含む核廃絶に向けた我が国の取組を主な内容とするセミナーにおいて使用したパネル「佐々木禎子氏の生涯」を展示し、来場した多くの人々は悲しい物語に言葉を失っていた。

5 警備

●クワズールナタール州における車両に対する投石・殺人事件の犯人検挙

8日、クワズールナタール州ダーバン北方のトンガートにおいて高速道路を走る車両に向けて投石した男3人が殺人の罪で逮捕された。事件は、昨年12月に発生した、高速道路N2を走る被害者の車に陸橋上から大きな岩が投げ落とされ、岩が直撃した助手席の同乗者が死亡し、更にその衝撃で後方に飛んだ助手席に押しつぶされて後部座席の同乗者も死亡したものであった。

事件の翌月、警察は投石事件に関し、複数の少年を取調べていたが、十分な証拠を得られず、継続捜査となっていたが、8ヶ月の捜査を経て犯人の逮捕に至った。逮捕されたのは、21歳から46歳までの男3人で、2人の犠牲者に対する殺人の罪で訴追されている。